

# 研究

11月5日（金）

NO. 8



研究主任（道徳教育推進教師）

10月24日は、道徳参観日でした。多くの地域の方や保護者に参加して頂くことができました。それぞれ、ねらいにせまった授業が展開できたでしょうか？参観された方の反応はどうだったのでしょうか？

今回は、それぞれの学級や保護者対象の授業について振り返りをしてみたいと思います。

## 【第1学年】

資料名『わたしのおかあさん』（

ねらい：家族の世話になっていることに気づき、その人たちに感謝しようとする心情を養う。

日頃、母親は小さい子どもの世話・掃除・洗濯・仕事などそれぞれ忙しい中で、児童の世話をしてくれている。また、児童を大切にしてくれている。これらのことについて気づかせたかった。資料を読み話し合う中で、このことに気づき、母親に対して、手紙を書いた。それを読んだ保護者には、感動され涙しておられる方もいらした。せっかくの日曜参観日なので、この機会を利用して保護者に参加して頂きたいと考え、事前に内容を知らせ来てくださるようお願いしておいたのが有効であった。

## 【第2学年】

資料名『じぶんがしんごうきに』

ねらい：自分たちを世話してくれる人々の苦労を理解し感謝する心情を養う。

自治会長さんにゲストティチャーに来て頂き、資料を読んでいく中でも児童の意見交流の場に入って頂いた。もちろん、6年間ほとんど毎日児童のために、交通安全を願って立っておられることについてのお話もして頂いた。資料理解だけでなく、実際に自分たちのために活動してくださっている自治会長さんの思いを知ることで、より感謝の気持ちを持つことが出来たのではないかと思う。振り返りの場でも、自分たちを支えてくれている多くの人の存在に気づいていた。今後は、その気持ちをどう表していくか・・・継続して考えさせていきたいと思う。

## 【第3・4学年】

資料名：『一枚の銀貨』

ねらい：親の深い愛情に気づくとともに、家族の事をよく考え、明るく楽しい家庭を作ろうとする心情を養う。

児童は、ハンスの気持ちに共感し、全員が積極的に発言することができた。終末部分で、おうちの方が書いてくださった自分あての手紙を準備しておいた。児童は、大変嬉しそうに（少し照れくさそうに）読んでいた。

保護者は、「何もかも一度に分かって」「何も言わず最後の銀貨一枚をハンスに手渡した」母親の深い愛情と子どもを思いやる姿に何度もうなずきながら参観されていた。児童がワークシートに書く際、ハンスの気持ちの方はすぐにたくさん書いていたのに対し、母親の真意についてはなかなか書けなかった光景を見て、「やっぱり親の心子知らず、なのかね？」という担任のつぶやきに、多くの方が深くうなずいておられた。

参観者にも振り返りの場面で、意見を求めた。参観していた中学生が発言してくれた。事前に知らせておけば、より多くの意見を聞くことが出来たと思う。今後に生かそうと思う。

## 【第5・6学年】

資料名『ぼくのお姉さん』

ねらい：家族の幸せを考えて、進んで役立とうとする心情を養う。

5・6年の児童においては、いっそう積極的に家庭生活にかかわることが求められる。家族の幸せのために自分には何ができるのかを考えて、家庭での自分の役割を自覚して、家族のために、積極的に役に立つことができるようにしたいと考えた。このためにも、家族が相互に信頼関係と深い絆で結ばれていることに気づかせることができるように、ぼく・姉・親の3つの立場・それぞれの視点から家族のことを考える必要があると思い授業を構成した。ただ、3つの視点のため、深まらせることができなかった。

後段では、「家族のために役にたったことはあるか？」という質問に対して、児童は複数発言できていた。児童の保護者にも、児童の発言を受けて発言してもらえた。参観日だからこそ可能なことであった。

## 【保護者対象道徳授業】

資料名『ゴミ箱のない公園』

ねらい：気持ちの良い公園の使い方を考える事を通して、社会の一員としての自覚を持ち、公德を守り進んでよりよい社会を作ろうとする意欲を育てる。

保護者対象の授業は、昨年度に引き続き2回目だった。昨年度に比べ、保護者も積極的に参加し、発表された。話しやすい場を作り、自由に意見を言っていただけのように、テンポ良く授業を進めるよう配慮したことやネームプレートを活用したために、活発な授業交流ができたと思われる。ゴミ箱を置く方がよいか、置かない方が良いかについての判断をする場面で、ネームプレートを使い、立場を明らかにすることで、理由をつけた意見が出しやすかったと思われる。参観者だけである地域の方も、進んで意見を述べられるなど、家庭・地域が一体となった道徳教育を推進することができた。

